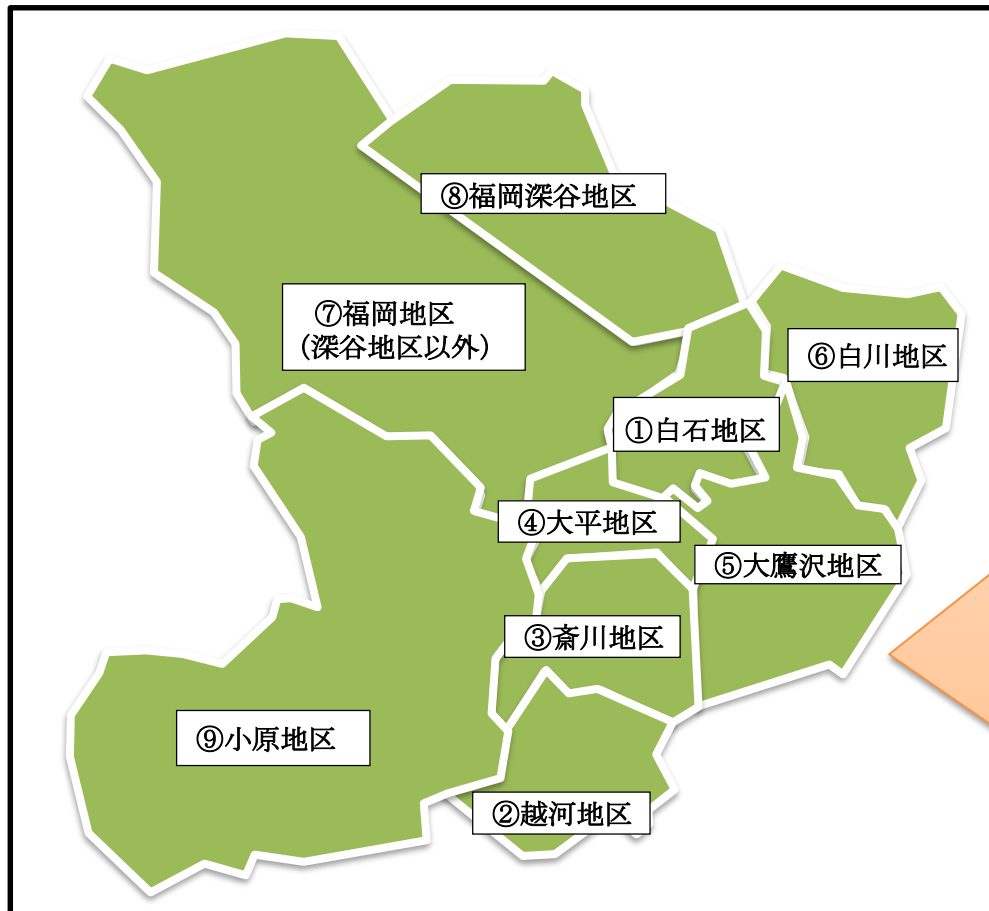


# 介護予防・日常生活支援総合事業等の 充実のための厚生労働省職員派遣を受けて ＜宮城県 白石市＞

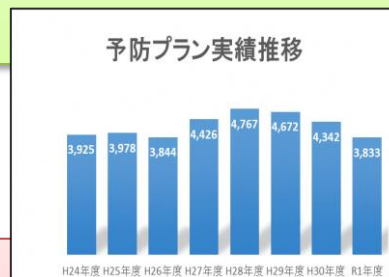


- 人 口 33,432人 (R2年3月末)
- 面 積 286.480Km<sup>2</sup>  
宮城県南部で一番広い  
福島県と隣接  
1町7村が合併してできた  
生活圏域が9ヶ所
- 高齢化率 35.1%
- 認定率 17.2%
- 独 居 1,017人
- 保 険 料 5,400円  
※R3年4月より5,600円 (+200円)
- 介護サービス状況
  - 病院が3ヶ所 (県平均より多い)
  - 特老：4ヶ所 ●老健：2ヶ所
  - 地域密着型通所介護施設が多い
  - 看多機など訪問リハ以外はすべてある

## 白石市の介護予防の取組 地域包括支援センター編

- 宮城県南で一番面積が広い自治体。市内に新幹線駅を含め5ヶ所の駅があるほど広い。地域包括支援センターは直営1ヶ所のみ。ランチとして在宅介護支援センターが2ヶ所本庁から離れたところにある総合福センター内に福祉課、長寿課、地域包括支援センター、社会福祉協議会がある。（健康推進課は本庁内で連携が難しい）
- 年々予防プランは急増。包括職員は予防プランの作成と給付管理に追われ、介護予防の取組が出来ず悩んでいた。→介護給付費も年々増加
  - H26年度 国の介護予防普及啓発事業（アドバイザー派遣事業にエントリー）
  - 一般介護予防の大事さと事業展開の助言がもらえ介護予防強化へ一歩前進

宮城県の後押しもありH27年度から、いち早く総合事業を実施  
関係者の合意形成の無いままに事業スタート



- 予防プランは減るところか年々増加する一方で委託先を探すのに必死な状態
- H27年度 通所C型を実験的に実施したが、繋ぎ先が見つからず二次予防と同じ結果に
- 繋ぎ先の充実が大事と実感→県の支援も受け「百歳体操」応援事業開始
- 「百歳体操」現在22か所に。支援のボランティアも増えてきたが、「百歳体操」だけの通いの場の創設は難しい、体制整備事業とうまく連携したい。
- 予防プランを減らすためにも関係者で自立支援の共通理解が大事だと実感
  - H30年度 国の介護予防普及展開モデル事業  
自立支援型地域ケア個別会議立ち上げ支援を受けた
  - この事業の取組で、白石市に初めて歯科衛生士が配置された。



### 白石市の介護予防の取組 長寿課編

- 体制整備事業の要である1層SC（2名）を社会福祉協議会へ配置するとともに事業をH28年度から委託。手探りのなか、協議体の設置や1層SCの地域お宝探しが始まった。先進地の講師による講演会や地域のお宝発表会を実施しながら、地区公民館をまわりまちづくり協議会の理解を得られたところから2層SC（H30年度～H31年度）の配置開始。生活圏域9地区中5地区に2層SC各1名が配置されたが、その後配置が進まず現在に至る。
- 2層SCと民生委員、地域包括連携協働でのサロンも立ち上がってきたが・・・

#### 総合事業開始からこの間担当者が全員異動

- そろそろ成果も出さなければいけない時期だが、介護保険のこともわからないのに委託先のSCからは、保険者はどう進めていきたいのかと問われるが、どこに向かえば良いのか、誰に相談して良いのかもわからない現状

#### 体制整備事業を実施する前からあるサービス

- 生きがいデイサービス
- 地域ささえ愛互助活動支援事業（家事支援）（移動支援）
- サロン活動支援

→総合事業と類似している事業ばかりだが

デイの利用者の減少、ボランティアの減少、高齢化による継続困難なサロンなど問題が山積



- SCには、地域に合ったサービスの創生やマッチングと言っているが、身近なところに参考事例がなく2層SCや地域の力量に任せている部分が多い。地域への横展開のイメージがわからない状況で行き詰まりを感じていた。



# エントリーした理由は・・・

## 生活支援体制整備事業

○2層SCを市内全域に配置したい。  
(5地区→9地区)  
→全地区に配置し多様なサービスの創生や  
マッチングをできるようにしたい。

○移動支援の充実  
→地域ケア会議や高齢者から受診や買い物  
などの移動が大変との声が多く聞かれる。生活  
体制整備事業をうまく活用したいけど、やり  
方がわからない。

担当者として何かしなければと思うが、  
範囲が広すぎて、何から取り組んでいいのかわ  
からない。誰に何を聞けばいいのかもわから  
ず焦りだけが・・・

関係者間で共有できるような場を作  
り上げるサポートをお願いしたい！



## 地域ケア会議

○地域ケア個別会議の評価と地域ケア推進会  
議から保険者へ提言したい。  
→地域ケア個別会議を効果的なものにしてい  
きたいけど、改善点がわからない。  
→推進会議をどのように開催したらよいか  
毎回悩んで、結局情報交換的なものになって  
しまっている。

○地域リハビリテーション事業の推進  
(地域ケア個別会議との連動)  
→職員(歯科衛生士)の派遣は出来たが、他  
の専門職の派遣までには至っていない。地域  
ケア個別会議との連動の仕方がわからない。  
(事例のモニタリング支援など)

地域課題の発見・解決に結び付けられ  
るよう、会議の質の向上につなげたい!!





## 思いの整理

○要介護者を対象とした地域ケア個別会議において、介護支援専門員の思考が変わらない。  
→要介護高齢者の方の介護予防・自立支援・重度化予防の視点を持ってもらえない。

○通いの場に通えなくなってきた高齢者をどのように支えるか  
→来なくなった人がどうしているのか気にはしていたが、何もしてこなかった。

○県南1広い面積の白石市で暮らす高齢者の移動に関して、ニーズは把握しているが、実際の暮らしがどのようなになっているかは見えていない。  
(本当に必要としている人の状態像、量、目的を知る。介護予防による下肢筋力の向上で改善できるものか、社会福祉法人の活用等、白石市の強みを活かした新しい手法の開発が必要なのか)  
→漠然としたキーワードは、思い浮かぶけれど、つながらない。

## 今後の方向性の共有

- 1.白石市における「地域で自分らしい暮らし」とは何かを明確化
- 2.現状の把握と課題の要因分析
  - (1)「移動」の課題について
    - ①独居等ハイリスク者の調査、ニーズ把握  
(民生委員、社協、生活支援コーディネーター等の協力を得てやってみる)
    - ②先進事例の研究
    - ③庁内の情報共有
    - ④第1回の内容を共有、若手職員含め、これからのことを考える
  - (2)生活支援コーディネーターからの情報収集
  - (3)市社協との連携
- 3.白石市の強みを活かし、上記1・2を踏まえ、課題解決に向けた方策を検討する。
- 4.上記1～3を見える化して関係者間の規範的統合を図る。

### 気づいたこと

- 移動支援だけに捉われず、普通の暮らしを続けるために、市の現状を浮き彫りにできるところからやってみよう！
  - ・市内全地区では広すぎる →モデル地区を作ろう
  - ・やる気のある地区 →協力者が多い地区
  - ・必要性の高い地区 →通いの場のない地区
- コロナ禍の中、2層SC、民生委員、認知症地域推進員、地域包括協働で地区オレンジカフェが立ち上がった地区。
- 「白川地区」をモデル地区に選定して深堀してみよう！



- モデル地区（白川地区）について、これまでに市が蓄積した定量・定性データをつき合わせて「見える化」してみる！



- 見えてきた課題について多方面方からの意見を聞くことで、新たな発想が生まれるかもしれない！
- できない、わからないにしておくとは何も変わらない。行動を起こすことで見えてくる景色があるはずだ。
- 担当者1人では、不安だけれどもみんなと一緒になら良いアイデアが出そう!!



## 2回目 意識や行動の変化の確認等 ～ 12/15 厚労省職員派遣② ～

経過報告をもとに、今後の取組に対する課題と方向性を意見交換しました。

### 白石市から経過報告（現状・これから）



- 「どこに向かいたい」かを示さないと、住民や関係者の心に響かない。どんなまちにしたいのかを知ってもらい、地域毎の特性に合った目指す姿を共有したい。

白川地区を立体化するためには、どのように見える化したらいいのだろうか??

- 地域ケア会議と協議体を核に地域連携を機能させることで、他の事業（認知症総合事業・生活支援体制整備事業・在宅医療介護連携事業・総合事業）とも連動させたい。

自立支援型地域ケア会議で、生活支援コーディネーター（SC）が活躍できるには??

### 意見交換



- 白川地区の人口や高齢者数と面積を絡め、再度積み上げた定量データを深掘し、優先順位を付けて住民に数値化し、「見える化」する。
- 地域を見つめ直してみようと、行政もSCも住民も地区の情報を改めて持ち寄り出し合う。
- ワークショップのように1つのテーマを出してステップを踏まえて実施する。
- 焦らずまずは「SCと共有」「民生委員と共有」と、共有する仲間を増やし、地域づくりの機運を高める。
- 人が変わっても継承される環境を作っておくことが大切。

- 協議体はSCと情報交換を増やし、1層に集約される仕組みを作ること、地域ケア会議でもSCが助言でき前進できる。



## モデル地区へ足を運んでみた！

- 勝手にモデル地区に選定されたけれど・・・ 1層SCと一緒に白川地区に出向いてみた。  
2層SCや公民館職員、まちづくり担当者にモデル地区のことを伝えた。
- 話し合ってみたら・・・  
地区の人たちも独居や高齢者世帯の増加に戸惑いと不安を持っていた。→「地区で何かできないか？」と

地域をどうにかしたいという思いは一緒だった!!  
目標が共有された？（合意形成ができたのかな？）

### <2層SCの本音が聞けた>

- 地域に貢献したいが、どうすればいいのかわからない。自分たちの活動は、介護予防につながるといわれるが、自分だけで事業は続かない。  
行政も支援してくれるのは心強い。

- その場で講師の相談を受けた  
住民に栄養の話聞かせたいが方法が分からない。
- 1層SCが仲介しヘルス部門の管理栄養士が  
地区カフェで出前講座を実施。  
→これって保健事業と介護事業の一体化？

### <地域の本音も聞けた>

- 白川公民館長（地区老人クラブ会長）から「介護保険」という言葉はよく聞くが難しく、よくわからない。知らないとだめだと思うが、どこに聞けばいいのかわからなかった。

- 地区の人たちも興味はあったが、相談窓口がわからずに聞けずにいたことを知った。  
→地域包括支援センターが「介護保険」について出前講座をする予約が取れた。  
（需要と供給のマッチング）

やっぱり地区へ足を運ぶことが大事だと実感！！

## 支援後の市の動き 2 : 生活支援体制整備事業のその後

### 健康だけじゃない生活の困りごとの「つぶやき」を知りたい！

- 効果的な総合事業を展開するためには、高齢者の生活実態を把握することが大事だが、コロナ禍で民生委員も地区周りができない現状でどうしたら高齢者の声がきけるのかな～？
- そこで！  
だめかもしれないが、第3次新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金事業へ高齢者実態把握事業の企画書を包括が出してみた。（高齢者へ往復はがきで、生活の困りごとを聞く。先進地の取組事例から）少ない設問なら、負担が少なく回収が多く見込めるのではないかと考えた。  
→3月末結果発表。企画却下でも新たなことへチャレンジする前向きさがでた。（チャレンジ精神）

### 支援を終えてみんなの意識が変わった出来事！

- 12月の支援を終えた直後からの第8期介護保険事業計画策定への気持ちの変化が起きた。どんなまちにしたいのか改めて考えながら気持ちを含めて最後の追い込みにかかった。  
→事業ごとに分担して作業しているが、向かっている先は同じだと策定作業を通して実感が深まった。足りてないことや出来ていないことにも気づけた。→もっとこうしたいという意欲がわいた。  
初めは記載予定のなかった、生活圏域ごとの情報をどうしても入れたいとの思いが強くなり実現  
→保険料や介護認定率などの数値が事業評価の一部である事を改めて自覚できた。  
住民にこれ以上の保険料の負担をさせたくない。→**やっぱり介護予防が大事!!**

出来上がったところで、介護保険計事業画書は誰に見せたいのか改めて考えてみた。介護保険事業計画の主役は住民なのに、住民が知らないのはおかしいと気づいた。住民を巻き込むには、情報発信が大事!! →市の広報誌で4月から年間6回の特集を組むことに。大変でもやってみることに。（まずはやってみることが大事だとこの事業で背中を押してもらった。）

## 支援後の市の動き 3 : 生活支援体制整備事業のその後

### 悩みの移動支援に 横串しが刺さった！

- 1回目の支援で自分たちが、課題だと思っていた「移動支援」についてこれからどうしようと悩んでいた時に、まちづくり担当の課から斎川地区で「移動支援」の実験的な取り組みをするとの情報提供があり当日参加した。**庁内**での取組情報が共有されるようになってきたと実感。
- 2月に斎川地区で勉強会が開催される情報が入り関係課が参加生涯学習課（まちづくり担当）、企画情報課（市バス担当）福祉課、長寿課、地域包括支援センター、社会福祉協議会

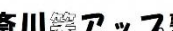
• 多くの課が参加し、行政への陳情になるのではと正直心配したが、参加した住民たちは真剣に自分達ができることを話し合っていた。  
• この取り組みを他の地区で活かせないかR3年度の課題だが、身近なところに参考事例があった。

• 休日にもかかわらず**若手職員**が自ら参加




### 地域福祉計画策定で 庁内の情報共有が進んだ！

- 白石市で初めて地域福祉計画が策定された!!  
まだまだ不十分だが、地域福祉計画を策定する中で庁舎内の関係事業が可視化された。  
→今後目指すべき共生社会の充実（重層的な支援体制）へ向かって準備していく必要性を共有できた。

きらい斎川  アップ塾 R2.2


---




### おたがいさま交通のつくり方 ～地域交通と地域運営～

1月22日に初めての「移送支援実験」を行いました。開催に至るまでには法律の壁や運営方法など、様々な課題がありました。今回は、複雑で分かりにくい「公共交通」の仕組みについて、とてもわかりやすくお話し下さる若菜さんをお招きし、これからの斎川の地域交通についてお話ししていただきたいと思います。

特別講師：若菜 千穂さん  
NPO 法人いわて地域づくり支援センター常務理事  
地域交通東北仕事人（東北運輸局）



コーディネーター：斎藤 主税さん  
NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター理事・事務局長



---

令和3年2月28日(日)  
13:30～15:30  
場所：あけぼの園 2階教室(旧斎川小学校)  
※上履きをご持参ください。

**皆さんの参加をお待ちしております！**

【主催：斎川まちづくり協議会】 ～お問合せ～  
電話 0224-26-2701

白石市自立支援型地域ケア個別会議の持ち方について意見交換を行いました。

### 白石市自立支援型地域ケア個別会議

#### <運営概要>

- 実施3年目、1会議につき2事例検討
- 直営地域包括職員と担当課事務職が司会進行
- 事例提供ケアマネと担当サービス事業所同席
- 多職種の専門職が助言、1層SCも参加



#### <悩んでいること>

- 助言者の力量をどう引き出すか
- 事例の選定と時間内での組立て

#### 【助言者の力量をどう引き出すかの一例】

- 多職種の専門職の力を借りて、短時間の「ミニ勉強会」を行うことでも積み重ねでも知識が深まっていくのでは？
- 助言者の不安を集約し、ニーズに即した開催方法を検討してみても？
- 事務局側も情報を持っている場合は、意見出しを行い双方向でのやりとりを進めることも合意形成に役立つのでは？

### 意見交換

#### 【事例の選定と時間内での組立ての一例】

- 市の目指す方向性を考え、ケース選定することも大事。
- 効果的な助言を得るために、ご本人・ご家族の同意が得られれば自宅内の環境や動作等を写真や動画に納め、議論に役立てる。
- 事例の概要紹介を端的に要約して伝える。
- ファシリテーターの技術が向上すると、事例の中身をどこに持っていきたいか、地域ケア会議の論点整理や方向性を見いだしやすくなる。  
(技術向上をどう進めていくか)
- 順番(平等)に専門職に発言を求めるのではなく、課題が絞られるなら、得意な方に集中する、またそこを補足するなど、メリハリを持たせる助言者の割り振り。
- 言語や紙面以外に写真や動画等があることで、セルフケアや家族支援への助言がしやすくなる。  
(例：転倒防止の環境整備、嚥下しやすい調理の工夫等)

## 支援後の市の動き 4 : 地域ケア会議のその後

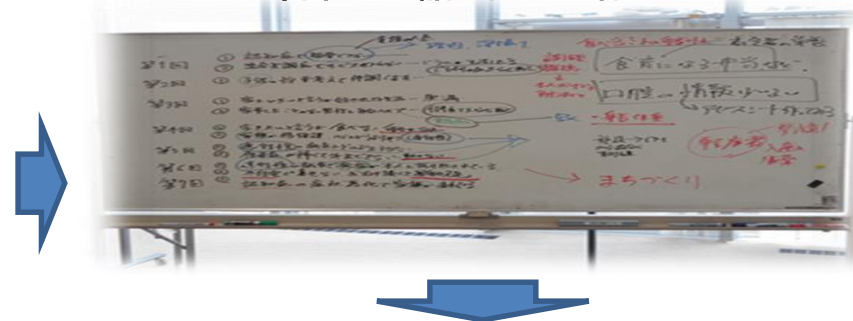
### 会議助言者との意見交換でたくさんの気づきが！

実施することだけに一生懸命になってしまい助言者やみんなの意見を聞いていなかったと反省！

〈2月最後の会議で助言者との意見交換会を開催〉  
助言者の意見の一例

- 資料が多すぎて読むことに時間がかかってしまう。
  - 事例によっては、助言する専門職を絞ってはどうか？
  - 事例の課題・論点整理があると助かる。
  - 食事や口腔機能の情報が少なすぎて助言に困る。
  - 動画での事例検討会は、助言しやすかった。
  - 市民に食のことを知ってもらう機会が作れないか？
  - 事例の方のその後が知りたい。
  - 必要なら訪問してもよい。
- などなど助言者全員から積極的に意見や提案が出た。

#### 助言者との話し合いの様子



- 長寿課と地域包括支援センターでも話し合った
- 事例をどうしていくか？
  - 資料をどうしていくか？→手を加えすぎるのも
  - 誰が司会をしていくか？  
→行政職員は難しい質問できないし
  - 助言者へどのように発言を求めていくか？など

結論は出なかったが、変えていく必要性はみんなでも共有  
どう変えていくかは、事例を検討しながら参加者全員で話し合っていくことが大事だと思った。

- 利用者の自立支援に役立てたい
- 事例提供者、助言者等参加者全員のスキルアップにつなげていきたい。
- 地域課題や社会資源の創生につなげていきたい。

この目的がぶれなければやり方は、変化しても大丈夫。みんなで一緒に創っていくことが大事  
担当者は、悩んだらみんなの意見を聞けばよい！

## まとめ

### 変わったこと・気づいたこと

#### 参加職員をつぶやき

- 将来の構想や展望、明確なビジョンを持つことが大事。
- 多方面から意見を聞くことで新たなアイデアが出る。  
(1人で悩まない、抱え込まない)
- 住民や関係機関に加え若手職員の意見を聞く  
(将来を担うのは若手職員)
- 各種総合事業は立ち立ち上げただけではだめ。  
連動してこそ成果が出る。
- 成功のカギは、課を超えた横の連携が重要  
(庁内連携の大事さと効果を実感)
- 住民や関係機関との合意形成にはわかりやすくポイントを絞ることが大事。(わかりやすい媒体工夫)
- 同じ課でも意見を聞く機会がなかった。  
(忙しくても話し合うこと、みんな同じ悩みを持ってる。)
- 「何かしなくては」という気持ちになった。
- 自分が年老いても安心して暮らし続けたいと思えるまちづくりが大事。(我が事と思う事が大事)
- 漠然とした課題には、対策は立てられない。
- 生活圏域を細かく見る視点が大事。

### これからやってみたいこと

#### 体制整備事業

- 白川地区の情報をもっと集めてみる。  
介護情報とKDB情報を分析してみる。
- 地区に足を運び話し合う、住民の声を拾う。
- 集めた情報を立体化する  
地図など視覚的な情報へ落とし込む
- 広報誌の特集を活用し第8期計画を分かりやすく伝える。地区の取組も紹介しSCや住民のやる気を引き出す。(伝える力のスキルアップ)
- 地区カフェの立ち上げや運営などの協働作業を通し行政、SC、地域包括が理解を深めていく。

#### 地域ケア個別会議

- 助言者や事例提供者の意見を聞きながら、みんなの地域ケア会議にしていく。
- 事例の課題を事前に絞り込むために司会者と事例提供者で事前に話し合いをもち、実践につながる助言を引き出す。
- 1事例の時間を短縮し勉強会の時間を作る。

まだ大きな変化は出ていなが、自分たちの仕事への意識や姿勢が一番変わった。関係者の絆が深まった。この気持ちが持続するように、今後ともご支援よろしく申し上げます。